

**家庭や車内で充電するだけ
手軽に電気が使用可能!**

Hondaは1965年に初めてエンジン発電機「E300」を発売して以来、様々なポータブル発電機をリリースしてきた。バッテリー電源のリベイドE500は、発電機よりも手軽に使いたいという声と時代性を見据えて開発された。これは、充電した電気を貯めておくことができ、必要に応じて電気を取り出せる最大出力500W (VA) のリチウムイオン電池を搭載した電源だ。家庭用コンセントから充電でき、持ち運びが可能で、屋外でも家庭にいるかのように電気が使用可能。もちろん消費電力や時間に制限はあるが、独自開発の正弦波インバーターによりPCなどの精密機器にも対応するなど、様々な家電を利用できるのが魅力。何よりエンジン発電機のような排気ガスや騒音が無いので、環境に優しく、使用時の安心感も高い。

さらにE500を購入すると、対人1億円、対物1,000万円の賠償責任保険（施設所有管理者特約）に1年間無料で加入できるので心強い（2年目以降は有料で加入可能）。

DETAIL



↑正面パネルにはメイン電源ボタン、AC OUTボタン、出力や残量など各種のインジケータ、USBソケット、コンセントを配置。



↑右サイドパネルには、充電用入力端子、アース、周波数切替スイッチ（50/60Hz）、並列運転端子が配置されている。



**Honda
ハンディータイプ蓄電機
LiB-AID E500**

↑デザインのモチーフはHondaが1965年に初めて発売したエンジン発電機「E300」。親しみを覚えるデザインに最新技術を凝縮。

価格：E500 JN 74,000円（税抜）
E500 JN1（アクセサリソケット充電器付属） 80,000円（税抜）

SPEC／サイズ（mm）：266×182×248、
重量（kg）：5.3、定格周波数（Hz）：50/60（切替スイッチ付き）、内蔵バッテリー：充電式リチウムイオン電池／容量377Wh、定格出力：300W（VA）、最大出力：500W、運転時間：約1時間（300W）／約35分（500W）、充電時間：約6時間、充放電寿命（サイクル）：1000回以上



↑クルマのアクセサリソケット（DC12V）からも充電が可能。停車中に充電を行なう際はバッテリー上がりに注意する。なお車両側のバッテリー電圧が低い場合、充電器が低電圧異常を検知して充電を行なわないようになっている。



↑カラーはパワーレッド、ネオエナメルホワイト、ブラックの3色（アクセサリソケット充電器の付属しないJNはレッドのみ）。



↑リベイドE500を2台繋いで最大1000W。またはHonda発電機（写真はEU9iGB エネポ／この場合500W+900W＝最大出力1400W）と並列接続（※）することで、より大きな消費電力の機器に対応。
※別売の並列運転コードまたはキットが必要

その場でラクラク充電、フライトが存分に楽しめる！
Honda LiB-AID E500がサポートする
スマート電動ラジコンLIFE



フィールドで電気が自由に使えたら、そんな電動ラジコンユーザーの夢を実現させるポータブル蓄電機がHondaのリベイドE500。交流コンセントを装備しており、自宅で使っている機器をそのまま屋外で使えるという手軽さが大きな魅力だ。面倒な準備も要らず、どこでも電気が使える便利な蓄電機を活用し、スマートな電動ラジコン生活をしよう！

●問合せ：Honda お客様相談センター ☎0120-112010
<http://www.honda.co.jp/battery/>（製品情報・取扱店について）
●写真／島田健次



●写真は飛行場としての利用と、撮影を許諾されたエリアにおいて、環境に配慮した駐車場所に停車して撮影されたものです。

AIR PLANE

もっと遊びたい気持ちを支える、頼もしい電源

電動ラジコンを飛行場で存分に楽しむには、多くの交換用バッテリーを用意するか、親電源として鉛バッテリーを用意するか、クルマのバッテリーに充電器を直接繋ぐか、いずれかの手段を用意する必要があった。しかし、多くのバッテリーを持ち、かつ事前に充電しておくというこの負担は物的にも時間的にも大きく、また別電源の用意にも、なにかしらの不便さがつきまとう。しかしリベイドE500があれば、小型・軽量で持ち運びに便利で、自宅ですべての充電器がそのまま運用可能。現場に着いてからでも充電が可能なので、バッテリー本数が少なくても、存分にフライトを楽しめるのだ。



↑今回のテストに同行いただいたフライヤーの荒木一成さんは、「予想以上に軽くて容量もたっぷり、取扱いも簡単で、非常に頼もしい存在ですね」とお気に入りの様子。



↑リベイドE500があれば、自宅ですべての充電器がそのまま使用可能と便利。Li-Poバッテリーは充電中の監視が必須だが、車両の後部荷室で充電が行なえれば、機体の準備をしながら監視することが可能だ。



↑電動機は燃調の難しさがなく、燃料による汚れもなく、騒音もない。唯一の電源問題はリベイドE500で解決されるだろう。



↑操作はメイン電源ボタンとAC OUTボタンの2つだけとシンプル。使われている出力と残量はわかりやすく表示される。



↑大きな固定ハンドル付きで持ちやすく、重さも鉛バッテリーよりも軽い5.3kgと、気軽に持ち出せるパッケージに仕上がっている。



↑最大出力は500Wなので、湯沸かし時の消費電力430Wのポットであれば使用可能。充電の待ち時間にゆったりお茶の時間が過ごせる。



全国のHonda Cars 店舗にて発売中!

2017年9月より発売開始されたリベイドE500は、全国に2000店以上を展開する四輪販売店Honda Cars(ホンダ・カーズ)で購入可能だ。多くの店舗では展示機が用意され、大きさや実際の動作の確認を行なうことができる。全国の取扱店はHondaのホームページで検索を。

▶ <http://www.honda.co.jp/battery/>

HELICOPTER

大容量のLi-Po電池は現場で仕上げたい

700クラスや550クラスで使用される6セル5000mAhほどの大容量バッテリーは、前夜に満充電せず、ストレージモードか8割で準備し、リベイドE500を使って現地で満充電に仕上げるのが理想的。インバーター搭載によりノイズの少ない電源を使用できるため、充電器が止まっていたが充電完了ではなくエラーだった、というトラブルもなく、確実な充電を実現することができるのも魅力的だ。



▶700~550クラスで使用される6セル5000mAhバッテリーに十分対応できる。450クラスの3セル2200mAhならたっぷり遊べる。



←大容量Li-Poバッテリーは満充電で一晩保管することは避けたい。リベイドE500があれば現場で仕上げ、フライトに挑むことが可能。写真のLi-Poバッテリー1本を1C充電するならば、 $22.2(V) \times 5.0(A) = 111W$ なので、充分対応可能だ。

DRONE

万が一に備えた安心感 空撮カメラマンは必携

空撮ドローンの専用電池は、やはり専用充電器(家庭用コンセント仕様)での充電が標準。このため、そのまま挿せるリベイドE500の利便性は見逃せない。さらに送信機やモニター用のタブレットやスマートフォンもUSBソケットから充電できて便利。「撮影時はバッテリーを7セットほど用意しますが、万が一足りないときを考えると心強いですね」とプロ空撮カメラマンでもある荒木氏は語る。



←専用充電器による飛行用バッテリーの充電に加え、USBソケットから送信機やタブレットなどの機器も同時に充電できて便利だ。



▶スタートダッシュから周回後半のスタミナを考えると、電池は現場で仕上げたい。これはRCカーレースでも同様だろう。



←同時に4本仕上げられれば、2本で走るオープンクラス、1本で走るストッククラスとのダブルエントリーも余裕でこなせる。写真のNi-MHバッテリーは容量3600mAh。1C充電で1本あたり $7.2(V) \times 3.6(A) = 25.92W$ 。4本で計103.68Wとこれまた余裕アリ。

BOAT

元気な走航用電池があればレースを存分に楽しめる

Li-Poバッテリーを使用するクラスはさておき、ニッケル水素電池で争うクラスは、いかに元気な走航用電池を準備できるかが重要。レース用のニッケル水素電池は放電特性が良く、前夜の充電では競争力が失われてしまうので、現地で仕上げたいもの。とくに2本がけで使用するオープンクラス艇ならなおさらだ。リベイドE500があれば継ぎ足し充電が可能で、ラウンド数が増えても心配無用だ。